

2024 年度 三大学における相互評価結果について

学 長 中井 伊都子
(内部質保証委員会委員長)

本学は、毎年の自己点検・評価の信頼性と妥当性を高め、内部質保証システムの一層の充実へつなげていくために、教育機関としての専門的な見地からの外部評価体制の整備を進めてまいりました。

2023 年度より、旧制高等学校をルーツに持つリベラルアーツ五学園(学習院大学、成蹊大学、成城大学、武蔵大学、甲南大学)の中で、2016 年度より実施されていた、成城大学と武蔵大学の相互評価に本学も参画し、三大学による相互評価を開始しました。

今年度は、評価校である成城大学からの書面評価案に基づき、対面での意見交換を行い、本学は、大学全体及び各学部・学環のディプロマ・ポリシーについて、別紙のような評価を受けました。

内部質保証委員会では、今回の評価結果を踏まえ、大学全体及び各学部・学環のディプロマ・ポリシーの見直しに向けて、今後一層の改善を図ってまいります。

以 上

甲南大学に対する相互評価結果

I 総評

甲南大学の大学全体及び各学部・学環のディプロマ・ポリシー（以下「DP」という。）は、概ね適切に定められている。

「人材養成上の目的と学生に修得させるべき能力等の教育目標」と「教育基本方針」に関しては類似しているものの、必ずしも同じ表現となっているわけではないため、大学、学部・学科及び学環の全体で整合性を検討されることも期待される。

大学全体の DP と学部・学環の DP とは、概ね対応して設定されているものと窺えるが、「学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果」と対照させた場合、一部の学部等については、その DP において、必ずしもこれらに対応しているとは容易には判断しがたい表現も見受けられるほか、一部の学部等においては、「知識」、「能力」、「資質」のすべてについて言及されているわけではなく、具体性に乏しい部分も見られるため、今後、より明確にお示しいたことが期待される。

大学における教育基本方針と DP に基づき、各学部・学科、学環の教育基本方針と DP が設定されていることから、学生にとっては概ね分かりやすい内容となっているものと考えられる。

学修成果の把握方法については、学生個人には学修ポートフォリオによる学修成果の可視化、各授業科目では授業改善アンケートによる学生の成長実感の可視化、客観評価として PROG によりジェネリックスキルの DP に照らした修得状況可視化に、それぞれ取り組んでいる。多様な手法を組み合わせて把握されており、概ね適切に行われているものと考えられる。

II 概評

I 建学の理念・教育基本方針とディプロマ・ポリシーは整合しているか。

「建学の理念」と「教育基本方針」に基づき、「甲南大学（学士課程）における教育基本方針」が定められており、DP はこれらと整合する形で設定されている。

他方、学部・学科、学環は、「建学の理念」と「教育基本方針」に基づき、学部・学科、学環ごとの専門性を考慮して「人材養成上の目標と学生に修得させるべき能力等の教育目標」を設定しており、この目標・目的の実現のために、学部・学科、学環に応じた「教育基本方針」を設定している。ただし、「人材養成上の目標と学生に修得させるべき能力等の教育目標」と「教育基本方針」は類似しているものの、必ずしも同じ表現ではないことから、全体が整合するよう再確認することが望まれる。

2 大学全体のディプロマ・ポリシーと各学部・学環のディプロマ・ポリシーは適切に関連しているか。

大学、学部、学科の DP が相互に関連することは、学校教育法施行規則においても、大学基準等においても何ら要請されていないが、貴大学における「3つのポリシー」の見直しにおける検討の過程及び実際に策定されて公表されている大学全体の DP と学部・学環の DP とを確認し対照させたところ、大学全体の DP と学部・学環の DP とは、貴大学が設定しているように概ね対応しているものと窺える。なお、関連の適切性について判断することはできないが、大学全体の各 DP において示されている卒業認定に際して学生が達成すべき「学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果」と対照させた場合、一部の学部等については、その DP において、必ずしもこれらに対応して

いるとは容易には判断しがたい表現も見受けられるようであることから、再確認することが望まれる。

3 卒業までに学生が身につけるべき資質・能力が明確になっているか。

大学の DP は、建学の理念及び教育基本方針に基づき、卒業までに学生が身につけるべき「知識」、「能力」、「資質」のそれぞれについて明確に示されている。

一方で、一部の学部等の DP においては、「知識」、「能力」、「資質」のすべてについて言及されているわけではなく、具体性に乏しい部分も見られることから、卒業までに学生が身につけるべき資質・能力について、大学の DP と同様に、明確にお示しいただくことが望まれる。

4 学生にとって分かりやすい内容となっているか。

大学における教育基本方針と DP に基づき、各学部・学科、学環の教育基本方針、DP が設定されており、概ね学生にとって分かりやすい内容となっているものと考えられる。

5 ディプロマ・ポリシーに基づく、学修成果の把握方法は適切であるか。

学修ポートフォリオは、DP に対応した到達目標が設定され、到達目標ごとに対応する科目の単位修得状況及び成績を反映して学修度が得点化され、学生も自身で年度ごとの推移を把握できる仕組みとなっている。授業改善アンケートでは、DP に基づき身につくことを想定している力について、学生の成長実感を計り、可視化している。PROG により測定されるジェネリックスキルについては、DP に照らして修得状況を可視化している。以上のことから、DP に基づく学修成果の把握は、概ね適切に行われているものと考えられる。

以上